ミュージカル「わたしは真悟」開催記念　京都府立図書館＆京都岡崎 蔦屋書店による選書フェア

本のプロたちがご案内「わたしは真悟」をもっと楽しむ24冊！

京都府立図書館 ver.

ロボットの文化誌

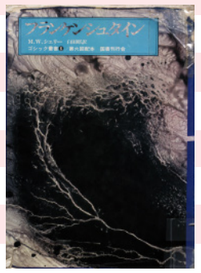
馬場 伸彦｜森話社｜2004(1108076488)

自律した機械をつくりたいと希求するのは、神の領域に近づきたいと願う人間の本源的な要求ともいわれていると、編者の馬場氏は言います。『わたしは真悟』では、子供の無邪気な遊びから、ロボットが意識を持ち動き出す。偶然に発生した世界ゆえに、一層恐ろしい。「ロボット」という言葉の誕生以降、人はロボットに憧れと恐れを抱きながら共生社会を夢見ています。ロボットの文化誌から、アームロボット「真悟」の存在に注目してはいかがで しょう。（酒井）

ファーザーランド

ロバート・ハリス｜文芸春秋｜1992(1106775321)

第二次大戦がドイツの勝利に終わり、ヒトラーの 75 歳の誕生日を祝う 1964 年のベルリン。リタイアしたナチの高官が連続して不可解な死を遂げていきます。文書館と資料室での調査が、孤独な捜査官に国家の根幹に関わる情報への扉を開きます。
パラレルワールドと現実のドキュメントや登場人物が交差する謎解きと、機械のように効率的に運営され、世界をおおってしまったシステム（国家・社会）との絶望的な対決の結末は。(福島)



フランケンシュタイン

M.W.シェリー｜国書刊行会｜1979(11003822298)

科学を探求するヴィクター・フランケンシュタインが、研究の末に造り出した生命体は、見る人に恐怖を呼び起こさせる醜悪な怪物でした。作り手のヴィクターすら逃げ出す醜い容貌は、内面の知性や愛を求める心にもかかわらず、怪物を人間世界から疎外させます。
絶望し破壊を繰り返しながらも、愛を渇望して創造主であるヴィクターを追う怪物の姿は、愛を伝えることを使命とする真悟にも重なります。(辰巳)

ロボットのくに SOS

たむらしげる｜福音館書店｜1996(1200338315)

フープ博士とルネくんに助けを求めてきたのはゼンマイ式のロボットでした。ロボットくんが暮らしているのは、人間がいない地下 600mにあるロボットのくに。地震で発電機が壊れ、電気式ロボットたちはすべて停止し、動けるのは旧式の彼だけになってしまったのです。一行が冒険の末に到着したロボットのくにの建物は、窓の形が三角でした。それを見ていると真悟が進化して「三角」になった場面が思い出されます。(森國)

ユリイカ

青土社｜2004 (36 巻 7 号)

楳図かずお特集号。目玉は楳図氏と批評家・岡崎乾二郎氏の対談「世界が終ったとき、子どもがはじまる」です。『まことちゃん』、『わたしは真悟』、『漂流教室』、『14 歳』などの作品を通して、二人が「子どもとは何か」について語ります。他にも『わたしは真悟』の中で実際には描かれなかった設定の話や、真悟が最期に残した言葉「アイ」についての話もあり、ファンであればぜひ読んでおきたい内容です。(森國)

悪童日記

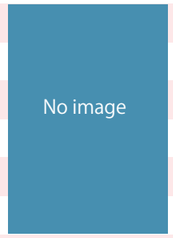
アゴタ・クリストフ｜早川書房｜1991(1100061439)

戦時下の＜小さな町＞。疎開のために祖母の家に預けられた双子の少年は、彼ら独自の方法によって過酷な現実に対峙していく。大人からはグロテスクにも見える、二人一体の完全な世界。そんな子ども時代に別れを告げるような衝撃的なラストは、『わたしは真悟』の悟と真鈴の跳躍の場面も想起させます。(辰巳)

ロボット症人間

ルイス・ヤブロンスキ｜法政大学出版局 1984(1101014478)

ロボットが人間に代わって労働をし、人間はその分自由時間を楽むという未来が本当に来るのだろうか。この本は、カレル・チャペックが戯曲『ロボット』を発表してから、約 60 年経った 1980 年代の著作です。ひと昔前になりますが、既にロボットが人間らしくなり、人間がロボットのようになる社会の到来を危惧しています。
生き残るのは誰か。きっと『わたしは真悟』の世界を覗けば、この本のように科学技術の発達と人間の存在について考えてしまうでしょうね。(酒井)



殺し屋ですのよ

星新一｜未来プロモーション｜1969(1100469921)

日本の SF作家の第一人者とも呼ばれる星新一は、1001 話を超える多くのストーリーを残しました。その中には、ロボットや人工知能などを題材にしたものもたくさんあります。
「神」という収録作品には、なんと「神を作ってほしい」と博士に頼む経営者が出てきます。博士は電子頭脳に世界各地のありとあらゆる “神” に関するデータを入力し、“神” を作ろうとしますが……（続きは本で）。
図書館にあるこの本は限定出版だったようで、「想像力が失われれば思考の自由も無意味となる　星」と直筆のサインが入っています。自由な想像力による、すこし（S）不思議（F）な世界をお楽しみください。
(北邑)

月は無慈悲な女王

ロバート・A・ハインライン｜早川書房 1969(1100578713)

地球の流刑地である月に暮らす人々は、植民地として搾取され、行政府から弾圧を受けています。コンピュータ技師のマニーを中心とした月側の仲間は、地球からの独立を目指し戦いを始めますが、そこで大活躍するのが、張り巡らされたネットワークを利用し情報を自在に操るコンピュータのマイクです。真悟と同じように意思を持つマイクですが、真悟と違い、人間らしさを追求し、ジョークを飛ばし、行政府を倒した暁には月世界の臨時大統領として就任します。
最後は沈黙してしまうマイクの姿に親友のマニーは何を思うのか……。
(是住)

われはロボット

アイザック・アシモフ｜早川書房｜1983(1106054776)

著者アシモフは、カレル・チャペックが戯曲『ロボット』を発表した年に生まれました。
未だ色褪せない SF『われはロボット』。そして、あまりにも有名なロボット工学三原則。
第一条　ロボットは人間に危害を加えてはならない
第二条　ロボットは人間に与えられた命令に服従しなければならない
第三条　ロボットは前掲第一条および第二条に反するおそれのないかぎり、自己を守らなければならない
この小説では、何かが狂い三原則から外れてはいないけれども、どこか外れた性質のロボットが次々と出現します。もし、『わたしは真悟』の世界で、この三原則が適用されていたら……。(酒井)

ボッコちゃん

星新一｜新潮社｜1981(1107272567)

バーテンダーの男が作った完璧な美人ロボットボッコちゃん。
多くの客が彼女に惹かれ、翻弄され、身を滅ぼしてしまう。
星新一の代表作として有名な表題作をはじめ、高度にコンピューター化された人間社会や、人間の欲望のゆくえをユーモラスにかつどこか不気味に描いたショートストーリーの数々が収録されています。『わたしは真悟』でも感じたことですが、機械やコンピューターに意思があると感じてしまうのは、それを作った人間の思いや心が、そこに投影されるからではないでしょうか。(奥村)

京都府立図書館では、この他にもたくさんの図書をご覧いただけます。
京都府内に在住・在勤・在学の方だけでなく、京都府に隣接している府県にお住まいの方へも本を貸し出しています。

●開館時間
・火曜日～金曜日
　午前９時30分～午後７時
・土曜日・日曜日、祝日
　午前９時30分～午後５時

●休 館 日
・月曜日
（祝日および振替休日は開館、翌日が休館）
・毎月第４木曜日（祝日は開館）
・年末年始、整理期間

●交通機関
京都市営地下鉄　東西線「東山」駅下車　徒歩10分
京都市バス「岡崎公園　美術館・平安神宮前」下車すぐ

京都府立図書館